

福井ふるさと学びの森あわらエリア第5回体験イベント

「里山の竹の管理と竹細工 ミニ門松づくり&竹のコースターづくり」

- 1 日時：平成28年12月10日（土） 9：00～12：30
- 2 場所：福井ふるさと学びの森あわらエリア（波松民有林）・旧波松小学校体育館
- 3 参加者：一般県民38名（うち小学生以下16名）
- 4 指導者：里山里海湖研究所 ふるさと研究員 河田 勝治さん（あわらの自然を愛する会）
- 5 内容：



福井ふるさと学びの森あわらエリアの第5回体験イベントを開催しました。

福井の冬を象徴するような灰色の雲が空を覆い、また北西の強い風が海から吹き付けるあいにくの天候となり、とても寒い朝となりましたが、たくさんの参加者が集まってくださいました。

最初は、波松民有林にある竹林を散策しながら、指導者の河田さんから管理についての話がありました。50年ほど前までは、近くを流れる波松川に沿って少しの竹林しかなく、たけのこを見つけるのに苦労したが、現在では、あたり一面に竹が広がり、それまで生えていたアカマツの林が無くなってしまったという地元ならではの話や、竹を活用しているいろいろな道具を作っていたこと、竹林は放置してしまうと日の光が中に入らなくなり薄暗くなってしまうが、ここでは、人が手を入れて管理しているため、こうして見通しがきくようになっていることなど、里山の保全について詳しい説明がありました。



次に、近くの小学校の体育館へ移動し、竹細工に挑戦しました。今回製作するのは、ミニ門松と竹を編んで作るコースターの2種類です。

門松の材料となる孟宗竹と真竹は、竹林の整備によってでたものを活用します。太い孟宗竹にフラワーアレンジメントなどで使うオアシスを入れて土台とし、それに、細い真竹3本と、周りに松やナンテン、笹などを飾り付けていきます。参加していただいた大人も子供も夢中になって取り組んでいました。最後に水引をつけて完成です。竹や松葉の緑とナンテンの赤、そして色とりどりの水引とがうまく調和して、どの作品も見事な仕上がりとなりました。



竹のコースターは、あらかじめ薄くそいで作った真竹の板を材料に、格子状に編み上げて作成していきます。竹の皮の部分にあたる緑色と、内側の部分にあたる茶色でうまく模様がつくように、それぞれが工夫を凝らしながら、集中して取り組んでいました。

実際に竹林を散策し、竹という自然の資源を活用した工作をすることで、身のまわりにある里山について考えるよい機会となったのではないかと考えています。今年度の福井ふるさと学びの森あわらエリアにおける体験イベントは、今回で終了となります。御参加いただいたみなさん、ありがとうございました。今後も引き続き、里山里海湖の魅力を味わっていただけるような機会を提供していきたいと考えています。

